

事業報告書

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月 31日

公益財団法人 和敬塾

1. 事業の概要

本年度におきましても、建塾の趣意に則り、その目的を達成するために「公益財団法人和敬塾 定款」第4条に基づき、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の行動制限が解除されたことを踏まえ、これまで培って来た良き和敬塾の精神文化を継承しつつ、新しい時代に受け入れられる「共同生活を通じた人間形成の場」を作り、他の大学生寮や宿舎との棲み分けを進めることにより、広く社会に和敬塾の存在を知らしめ、多くの塾生を迎え入れるとともに、前途有為な青年を輩出すべく、役職員一同、下記の事業に取り組みました。

次に、実施しました事業の活動の概況等を項目別にご報告致します。

(1) 学生寮並びに研修施設・体育施設・生活施設の運営（1号事業）

①共同生活の場である各施設的良好なる状態維持の為の改修工事等

* 学生ホール屋上の防水工事を行った。

* 空調設備、電気設備、エレベーター、給排水ポンプ、ボイラー、消防設備、特殊建物等の各種保守点検を行なった。

* 備品などの修理並びに取り換え工事を行なった。

* 樹木の剪定及び伐採を行なった。

②現有施設の保守並びに有効利用

* ①項の各種工事などを行うと共に、主として和敬塾本館を収益事業として外部への貸出を行った。

③各寮の特徴、特色を活かす為の諸施設の活用

* 新型コロナウイルス感染症の行動制限が解除されたことを踏まえ、各寮のイベント等は、塾生と相談のうえ内容を検討し実施した。

(2) 入寮学生の共同生活による修養・研鑽への援助（2号事業）

①入塾式、塾祭、体育祭、予餞会、シンポジウム、日本伝統歳事の実施

* 入塾式、塾祭、各寮対抗競技の体育祭、予餞会の四大大行事については、新型コロナウイルス感染症の対策をしつつ、対面形式で実施した。

* 入塾式に関しては、4月9日に対面形式にて開催した。

* 塾祭は、午前中の式典のみの開催とし、形式は対面形式とした。

* 塾祭の午後に開催していた「3年生劇」を、今年度は「3年生」にこだわらず、各寮全体としての参加に変更し、「和敬塾演劇祭」として6月24日に開催した。

* 9月の体育祭を新型コロナウイルス流行後初めて開催した。

- * 予餞会に関しては、12月11日に祝賀パーティーも復活させながら、ほぼ旧来どおりに開催した。
- ②新入塾生に対する和敬塾設立理念並びに生活規範のオリエンテーション
* 生活規範への理解として、3月30日にオリエンテーションを行った。
- ③各寮に於ける教養活動・イベント並びに既存の教養講座の開催
* 昨年より講師の先生方と参加塾生の話し合いのもと、新型コロナウイルス感染症対策を十分に実施することができる講座から再開していたが、5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の行動制限が解除されたことを踏まえ、ほぼ旧来通りの活動となった。
- ④各寮塾生委員会若しくは班が主催する行事の開催
* 寮事務所と相談の上、新型コロナウイルス感染症対策をしつつ開催した。
- ⑤一年生面談及び年末一・二・三年生継続面接の実施と助言並びにその発展的活用
* 6月～7月にかけての新入塾生面談、12月～1月にかけての一年生、二年生、三年生との面談は感染対策の上、面談時間を短めにして実施した。
- ⑥寮長及び副寮長による日常生活を通じた寮生の人間形成
* 各寮委員会の会議、各寮総会への参加並びに日常生活での様々な場面をとらえて行なった。
- ⑦塾友、外部学生との交流活動並びに研修会の開催による寮生の視野の醸成と拡大
* 7月4日～5日にかけて、中華民国大学生訪日研修団と当塾塾生との交流合宿が和敬塾本館にて行なわれ、塾内見学、茶道体験、歓迎夕食会、討論会などを通して文化交流を行なった。
- ⑧塾友との各種情報交換並びに講演会等の共同企画・開催による寮生の卒塾後の準備
* 和敬塾卒塾生のOB会である塾友会との連携を深めるため緊密な情報交換を行うとともに、講演会を含む「ホームカミング大会」等への協力を行なった。
- ⑨日本人学生と留学生との交流による相互理解の促進と国際性の醸成
* 塾主催行事並びに各寮委員会行事、各寮の班行事への留学生の参加を通して、相互理解を深めた。
- ⑩所轄官庁の協力による防災意識並びに安全管理の啓蒙
* 必要に応じて大塚警察署並びに小石川消防署、小石川保健所等から助言を受け、防災体制の確立に努めた。
* 防災訓練を6月3日に、新型コロナウイルス感染症対策のうえ、塾生・職員を交えて開催した。
* 防災倉庫、備蓄食糧庫、災害時用諸機材の点検などを定期的に行なっている。
* 新型コロナウイルス感染症への対応については、5月8日以降、食堂並びに諸施設等の共用部での感染対策を緩和し、感染症対策に留意しつつ、ほぼ同感染症流行前の形式に戻した。

⑪地域社会との交流を目指した近隣文化活動等の実施

* 塾生の地域社会に対する奉仕の実践の場として、地域の美化活動等を行なった。

⑫「共同体研究プロジェクト」を実施し、発達心理学の専門家である和敬塾 OB の協力を得て、和敬塾共同体を学術的（発達共同体学）に探究するとともに、班活動を中心に、塾生個人、ならびに班、寮、それぞれの共同体の成長をはかり、塾生の日常生活の充実をさせる。

* 塾生に対するインタビューをもとに合宿を行い「令和 5 年度発達共同体学プロジェクトレポート」としてまとめる事ができた。今期のテーマは「和敬塾のありたい姿・残したい姿」（レガシィ）であり「“人”が“人”を創り寮（塾：共同体）を創る」とまとめられた。議論の過程でその様な和敬生活になる為の諸要因がいくつか指摘された。

⑬広尾学園小石川中学・高等学校、学校法人創志学園、栄東中学・高等学校との包括的連携協定を基に、生徒並びに学生と寮生との教育交流を実施し、人材育成に寄与させる。

* 和敬塾諸施設の活用等、逐次協議のうえ進めた。

(3) 講演会・講座・討論会等の開催（3号事業）

①入塾式、塾祭、予餞会での記念講演

* 入塾式に関しては、新型コロナウイルス感染症の対策をしながら保護者の招待を再開し、通年のように対面形式で記念講演を開催した。

* 塾祭に関しては、新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで対面形式にて午前中の部のみ開催した。

* 予餞会に関してはほぼ旧来の形式に戻し、対面形式にて記念講演を開催し祝賀パーティーも復活させた。

②役職員並びに講師と塾生との懇談会並びに懇親会

* 新型コロナウイルス感染症拡大のため、新・旧塾生委員会交代会等を中止とした。

* 各寮国際部の活動をフォローするとともに、ハンブルク大学講師により、留学生希望者向けの懇談会を開催した。

③各寮塾生主催による講演会、シンポジウム等の開催

* 新型コロナウイルス感染症拡大のため各寮塾生主催による講演会、シンポジウム等は最小限とした。

④ホームページ上で講演会の公開・発信

* 現在、編集作業を行っている。

⑤在塾生の為の企業説明会並びにマナー講習会

* 新型コロナウイルス感染症対応のため、企業説明会並びにマナー講習会を中止とした。

⑥班会議並びに寮内討論会の開催

* 各寮において、塾生委員会を開催し、班会議も随時行った。

(4) 奨学金の貸与（4号事業）

①計 14 名に貸与した。

(5) 東京都指定有形文化財「旧細川侯爵邸」の保存並びに活用（5号事業）

①本館文化財指定に基づく一般公開

*概ね各月 2 回程度を目処とした定期公開等の自主公開並びに東京都主催による文化財ウィークにおいて一般公開を行なった。参加者は約 374 名であった。

②塾生のための文化事業の場として活用

* 中華民国大学生訪日研修団と塾生との交流の場として活用した。
* 茶道部の会場として活用した。

(6) その他、第 4 条の目的を達成するために必要な事業（6号事業）

①塾ホームページ、各寮ブログ等による継続的情報発信による募集活動

* 情報発信力を高めるため、既存のホームページのほか、和敬塾公式 FaceBook、インスタグラム、X（旧 twitter）にて、随時イベントや、塾生の日々の生活を紹介した。
* 早稲田大学合格者に配布される冊子「学生寮のご案内」に大学提携寮として和敬塾の案内が掲載された。その他、在寮が二年間である早稲田大学直営寮の退寮者に和敬塾の案内を配布、また、留学生短期プログラムの宿舎として和敬塾を紹介等、早稲田大学との関係が深まった。
* 「学生会館ほっとステーション」「学生寮ガイド」等の学生寮情報サイトに掲載した。
* 東大生協パンフレットに広告を掲載した。
* 明大サポート「お部屋探し NAVI」に広告を掲載した。
* 不動産情報サイト「e-部屋探し」「学校から探す賃貸物件」に登録した。
* 東大生協主催の「住まい相談会」と明大サポート主催の「お部屋探し相談会」に出展した。

②塾生出身校、塾生父兄並びに卒塾生との関係強化による募集活動

* 塾生及び塾友に同行してもらい塾生出身校を訪問し、進路指導の先生等に和敬塾の紹介と入塾案内を行った。
* 塾友会支部との交流を深め、募集活動の支援を得た。
* 各寮の職員が塾生の保護者と関係性を深め、その結果、保護者による新入塾生の紹介が増えた。

③「塾生募集プロジェクト」を実施し、包括的連携協定を締結した学校を初め、共同生活を通じた人間形成を実施している和敬塾の姿を受験生や保護者に知らしめ、募集活動につなげる。

*岡山白陵高校が首都圏での研修のため上京した際、旧南寮に宿泊し塾生と懇談会を開催した。（それに先立ち、同校の宮崎校長が来塾し、施設全般の見学をした。）

④「パブリシティプロジェクト」の一環で、ご父母、和敬塾 OB、教育関係者、マスコミ等に「和敬塾メールマガジン」を配信し、和敬塾の理解の輪を広げる。

*「令和5年度発達共同体学プロジェクトレポート」を作成し、現在、当該活動に対する学術的見地から報告書を作成中である。

⑤新規収益事業の開発

*種々の新規プロジェクトと共に鋭意研究中である。

(7)講演会、シンポジウム、セミナー、文化活動

年月日				
令和5年	4.9	入塾式	講演	演題：「和敬塾とはなにか」 講師：大原大学院大学学長・塾友 石山卓磨
令和5年	5.14	塾祭	講演	演題：「人間の共同性はどう進化してきたか」 講師：総合地球環境学研究所所長 山極壽一
令和5年	12.10	予餞会	講演	演題：「緊迫する国際情勢と日本の針路」 講師：元外務事務次官・大阪大学特任教授 藪中三十二

(8)教養講座

一流講師の直接指導を受けて、合宿や会食も取り入れ、お互いに切磋琢磨をはかっている。

実施した講座と講師は下記の通り。

新型コロナの行動制限が解除になったため、ほぼ旧来の活動に復している。

棋道部は講師不在のため活動休止中であつたが、箕輪光博先生（東京大学名誉教授）に講師になっていただき講座を再開した。

（講座名）	（講師）	（講座名）	（講師）
茶道	江川 宗京	書道	岡本 光平
空手道	岡 精近	居合道	山崎 誉
中国古典輪読会	信夫 息游	絵画研究会	上葛 明広
直心影流法定	”	坐禅	未定 ※高石先生引退
剣道	塚本 博之	グレートブックス研究会	犬塚 潤一郎
柔道	山田 利彦	英会話教室	Malcolm MacNeil
棋道	箕輪 光博		

(9)入塾選考

入塾選考は、入塾願書による選考の後、塾設立の趣旨、塾生活の内容を説明し、理解させた上で面接または書類選考を行い、入塾を決定している。令和5年度の新入塾生は日本人新入生54名（春：新一年49名、新二年2名、新三年1名、院生1名、秋：1年1名）、日本人再入塾4名、留学生112名の計170名であった。

尚、令和4年度の新入塾生は日本人新入生55名（春：新一年50名、新二年2名、新四年2名、秋：四年1名／院生は春、秋とも0名）、日本人再入塾1名、留学生87名の計143名であった。

(10)留学生に関して

令和5年度は、入国制限緩和の影響で、170名の留学生が在籍し、日本人塾生との共同生活並びに行事や教養講座の参加・活動を通して、日本文化への理解を深めている。

東京国際大学から依頼があり、令和5年秋に初めて同大学の交換留学生を受け入れた。

尚、令和3年度は103名の留学生が在籍した（3～4ヶ月程度の短期生も含む）。

大学別塾生数一覧表

No	大学	一年生	二年生	三年生	四年生	OB・大学院等	留学生	合計
1	早稲田大学	23	17	20	22	15	110	207
2	上智大学	0	2	1	3	0	27	33
3	東京大学	11	4	5	5	4	1	30
4	学習院大学	1	0	1	0	0	15	17
5	明治大学	3	2	3	4	1	0	13
6	東京国際大学	0	0	0	0	0	11	11
7	中央大学	3	1	1	2	0	0	7
8	慶應義塾大学	0	0	2	1	1	2	6
9	日本大学	1	1	2	1	1	0	6
10	東洋大学	1	1	1	3	0	0	6
11	立教大学	1	1	1	1	0	0	4
12	法政大学	1	2	0	0	0	0	3
13	青山学院大学	0	1	0	1	0	0	2
14	國學院大学	0	0	0	1	1	0	2
15	専修大学	0	1	0	1	0	0	2
16	拓殖大学	1	1	0	0	0	0	2
17	東京歯科大学	0	1	0	1	0	0	2
18	東京理科大学	1	0	0	0	1	0	2
19	駒澤大学	0	0	0	1	0	0	1
20	順天堂大学	1	0	0	0	0	0	1
21	芝浦工業大学	0	0	0	0	0	1	1
22	城西国際大学	0	0	0	1	0	0	1
23	大正大学	1	0	0	0	0	0	1
24	電気通信大学	0	1	0	0	0	0	1
25	テンプル大学	0	0	0	0	0	1	1
26	東京医科大学	0	0	0	0	1	0	1
27	東京経済大学	0	1	0	0	0	0	1
28	東京外国語大学	0	0	0	1	0	0	1
29	東京学芸大学	0	0	0	1	0	0	1
30	東京工業大学	0	1	0	0	0	0	1
31	東京工芸大学	0	0	1	0	0	0	1
32	東京慈恵会医科大学	0	0	1	0	0	0	1
33	一橋大学	1	0	0	0	0	0	1
34	武蔵野大学	0	1	0	0	0	0	1
35	明治学院大学	0	0	1	0	0	0	1
36	横浜国立大学	0	0	0	0	1	0	1
37	横浜国立大学	0	1	0	0	0	0	1
38	その他	0	0	0	0	2	1	3
	合計	50	40	40	50	28	169	377
	昨年度	50	49	55	48	20	103	325

2. 処務の概要

役員等に関する事項

(令和6年3月31日現在)

役職名	氏名	就任年月日	担任職務	常勤・非常勤
理事	前川 正	H30. 6. 27	理事長	常勤
〃	佐藤 一義	H25. 11. 1	専務理事	〃
〃	前川 正雄	H24. 2. 1		非常勤
〃	藁谷 友紀	〃		〃
〃	柳川 邦衛	H27. 6. 23		〃
〃	跡見 裕	H30. 6. 27		〃
〃	平沢 泉	〃		〃
〃	田島 信元	R02. 6. 27		〃
〃	嘉藤 祐樹	R04. 6. 27		常勤
〃	佐々木 良夫	〃		〃
〃	三嶋 直純	〃		〃
監事	笠原 將敏	H24. 2. 1		非常勤
評議員	河合 素直	H24. 2. 1		非常勤
〃	細越 峻	〃		〃
〃	渡邊 重範	〃		〃
〃	太田 朝生	〃		〃
〃	福原 毅	〃		〃
〃	栃木 弘義	R03. 6. 4		〃
〃	岩木 勅一	〃		〃

3. 役員会等に関する事項

(1)理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 05. 6. 12	1.公益財団法人和敬塾令和 4 年度事業報告の承認に関する件	原案どおり可決
	2.公益財団法人和敬塾令和 4 年度決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	3.任期満了に伴う次期理事候補者並びに次期監事候補者、次期評議員候補者の承認に関する件	原案どおり可決
	4.公益財団法人和敬塾業務執行理事（常務理事）選定に関する件	原案どおり可決
	5.特定寄附金に関する件	原案どおり可決
	6.定時評議員会招集に関する件	原案どおり可決
	7.職務実行状況報告	報告事項
令和 05. 6. 28	代表理事（理事長・専務理事）選定の件	原案どおり可決
令和 06. 3. 19	1.公益財団法人和敬塾令和 6 年度事業計画の承認に関する件	原案どおり可決
	2.公益財団法人和敬塾令和 6 年度収支予算の承認に関する件	原案どおり可決
	3.令和 6 年度資金調達及び設備投資の見込みについての承認に関する件	原案どおり可決
	4.長期修繕計画（令和 6 年度版）の承認に関する件	原案どおり可決
	5.資産取得計画（令和 6 年度版）の承認に関する件	原案どおり可決
	6.任期満了に伴う次期理事候補者の推薦に関する件	原案どおり可決
	7.職務執行状況報告	報告事項

(2)評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 05. 6. 27	1.公益財団法人和敬塾令和 4 年度事業報告に関する件	報告事項
	2.公益財団法人和敬塾令和 4 年度決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	3.任期満了に伴う次期理事並びに次期監事、次期評議員選任に関する件	原案どおり可決
	4.職務実行状況報告	報告事項

4. 附属明細書

令和 5 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。